

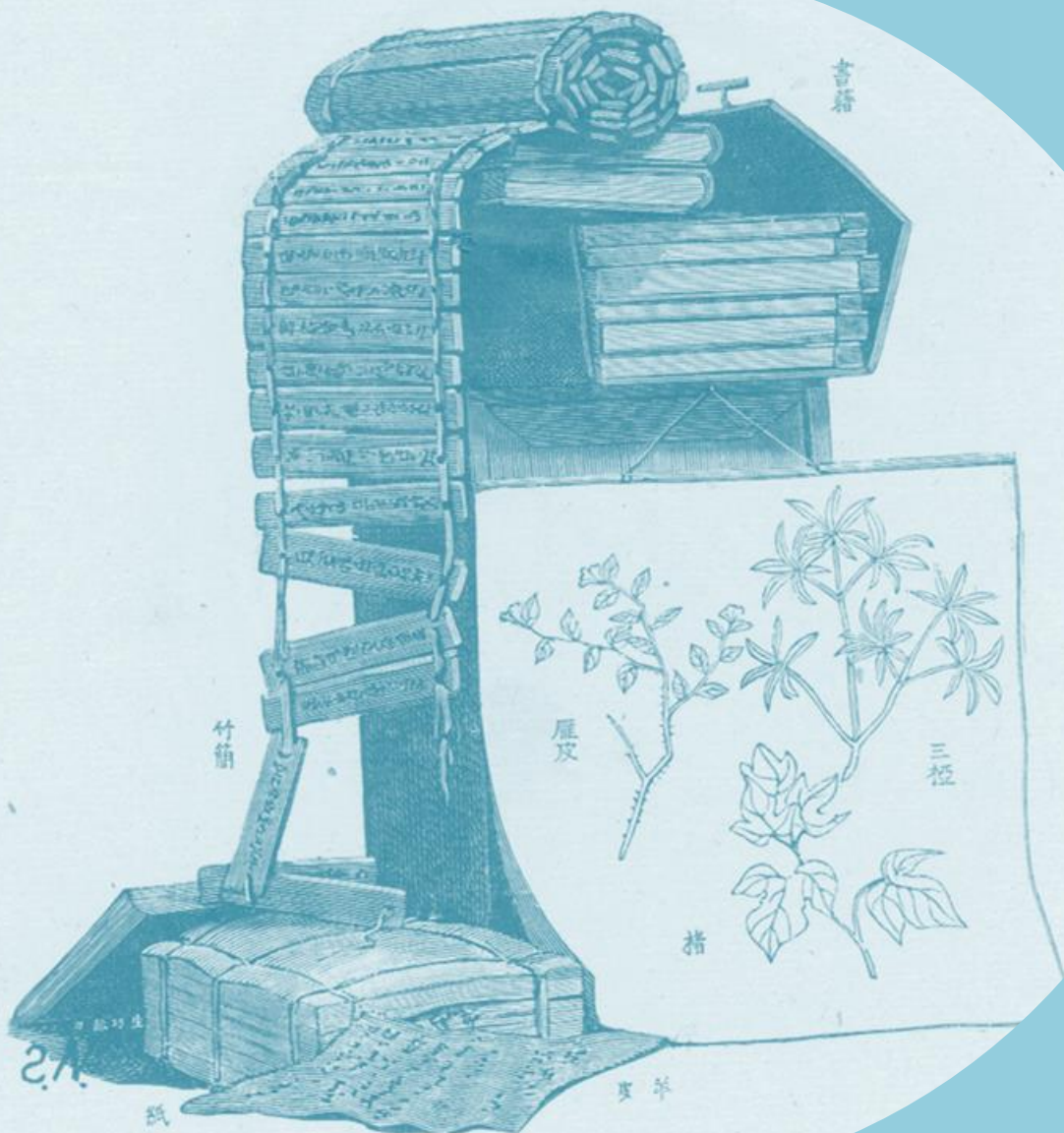
第19回 2021年度

日本古典籍講習会

# 表紙文様について

国文学研究資料館  
齋藤真麻理

2021年7月7日



I 表紙とは

II 表紙文様の基礎知識—艶出しと<sup>から</sup>空押し—

III 文様のさまざま

IV 文様レッスン①～⑥

※とくに注記のない古典籍は国文研蔵

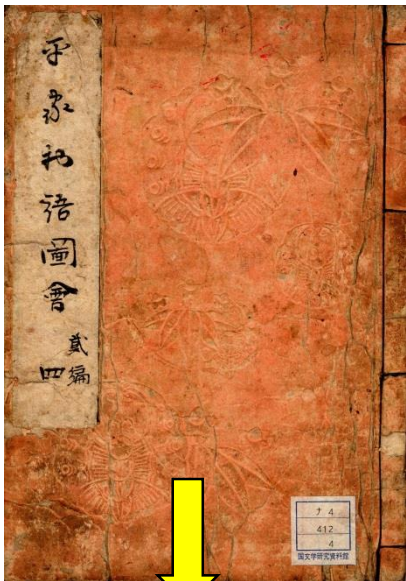
# I 表紙とは

書物の保護や装飾のため、書物の外側に添えられるもの。

- ・ 卷子装かんすの一枚物／冊子装の二枚物
- ・ 布表紙（裂表紙きれ）／紙表紙

※嘉永二年刊『平家物語図会』

<https://www.doi.org/10.20730/200007493>



文様拡大・モノクロ

表紙文様Ⅱ 笹竜胆ささりんどうに浮線蝶ふせんちよう散らし

源氏の紋は「笹竜胆」、平氏の紋は「蝶」と

いう理解が定着し、源平合戦を連想させる

表紙文様へ。



鎌倉市の市章



浮線蝶

時代、ジャンル、内容などにも関わる表紙の世界／  
デザインの美しさ／書物の「顔」

## ◆布表紙（裂表紙）

麻、錦、どんす緞子など布を用いる。実用より装飾性を重視。

豪華な絵巻などはきんらんどんす金襴緞子が多い。

版本については、献上目的等の上製本以外、きわめて少ない。

## ◆紙表紙

そし素紙表紙ともがみ || 料紙と同素材の表紙。共紙表紙。

ここう香表紙 || ちようじ丁字で染色。薄赤に黄色味を帯びる。江戸時代以前

にも多用。

あせ渋引き表紙 || 柿渋を引いた栗色。栗皮表紙。何度も渋を重ね、

光沢を帯びたものもある。比較的虫害に強いとされ、江戸時

代初期の古活字版、抄物、仏書、漢籍などに多い。

あせ紺紙金泥表紙 || 藍で紺に染めた紙に金銀の泥ででい下絵を描いたもの。物語や歌書に多い。

たん丹表紙 || 鮮やかな赤橙色。水銀を用いるため酸化が進み、鉄色や銀色に変色するものもある。

すりつ刷付け表紙 || 合巻などの表紙全体に錦絵を印刷。

・『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店、1999

・『日本の伝統色 その色名と色調』長沢盛輝、青幻舎、2006

・「和書のさまざま―書誌学入門―」国文研HP



## 布表紙

### ①『大黒舞』

江戸時代前期写 絵巻2軸 貴重書

書誌ID: 200006198

<https://www.doi.org/10.20730/200006198>

縹色地に唐草文様金欄表紙

(はなだいろ)



## 紙表紙

### ②『太平記』

寛永元年刊 古活字版 41冊 貴重書

書誌ID: 200003071

<https://www.doi.org/10.20730/200003071>

渋引き表紙(栗皮表紙)





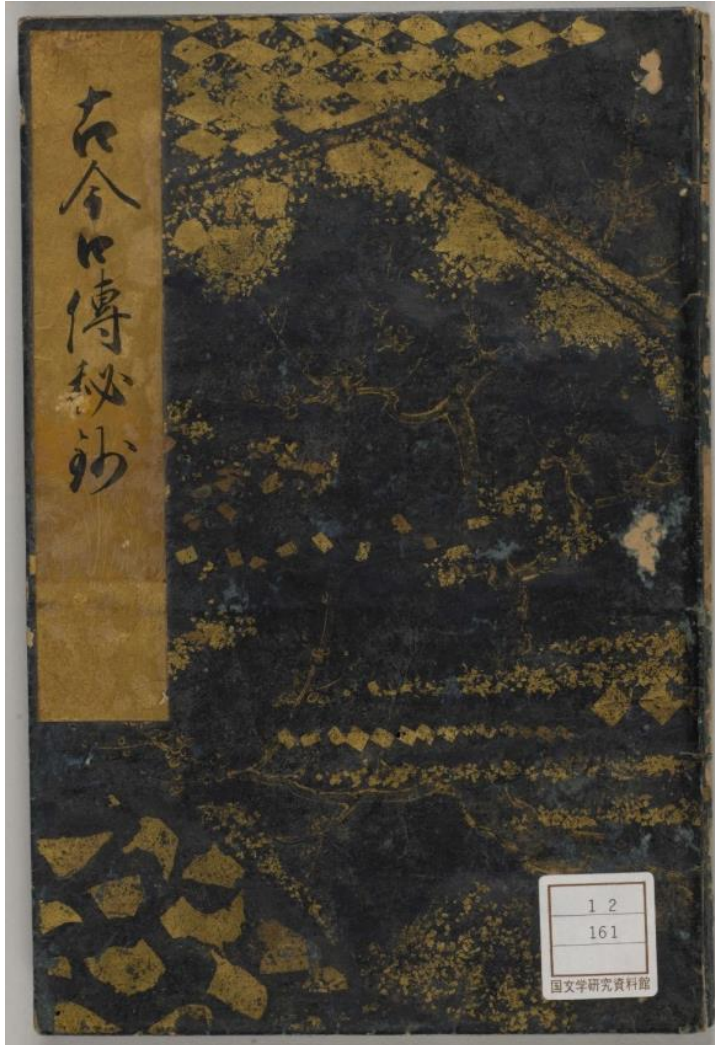
③『古今口伝秘抄』

室町時代初期写 1冊

書誌URL:

[http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG\\_B\\_200000091](http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_B_200000091)

紺紙金泥表紙



④『ささやき竹』

江戸時代前期写 3冊

書誌ID: 200003084

<https://www.doi.org/10.20730/200003084>

紺紙金泥表紙



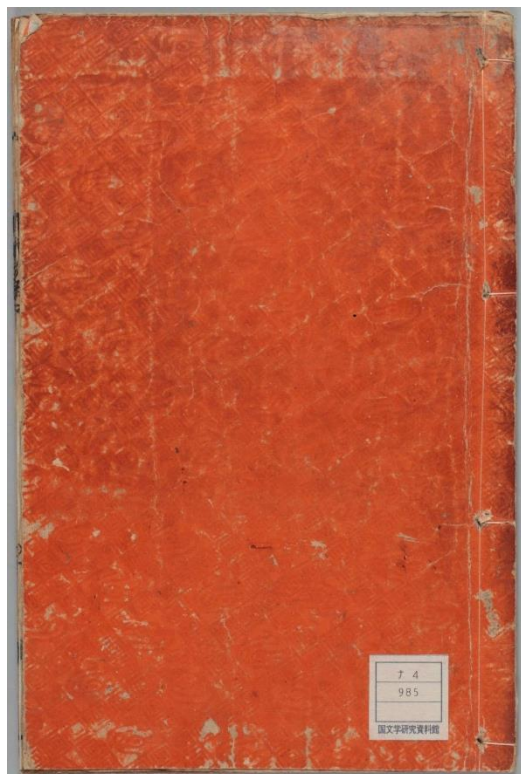
⑤『伊曾保物語』

万治2年刊 1冊

書誌ID: 200021086

<https://www.doi.org/10.20730/200021086>

丹表紙



ナ 4  
985  
国文学研究資料館



第廿七 からすとくじやくとの事

じらいやごうけつものがたり

⑥『児雷也豪傑譚』

合巻 48冊

書誌ID: 200004250

<https://www.doi.org/10.20730/200004250>

刷付け表紙







←寛政9年刊『詩仙堂志』  
個人蔵。

明治本『観音経和談鈔』  
『弁財天利益和談鈔』と  
同一の表紙文様。

文様名  
「雲文繋ぎに春の七草」



元禄3年(1690)刊『人倫訓蒙図彙』より「表紙屋」

京都大学蔵 : <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/library/i101/image/06/i101l0121.jpg>



## Ⅱ 表紙文様の基礎知識

### — 艶出しと空押し —

#### 艶出し文様

凹凸の型を紙の裏面に当て、表面から磨くなどして、光沢を出した文様。江戸時代初期・中期に多いとされる。光線の加減で判別できる場合もある。見返しが剥がれて露出した裏面に注目。

#### 空<sup>から</sup>押し文様

型を用い、表面に押しつけて凹凸を浮き出させた文様。慶長年間（一五九六～一六一五）以後に多く、朝鮮本の影響かとする説もある。明治本にも多く見られる。

単一の文様のみ／地模様＋別の文様／文様を散らす

※いずれも呼称は一定していないが、ここでは『日本古典籍書誌学辞典』による。

※国文研文献資料部『調査研究報告』1・2・4・5・6・12・13・14号および同25号別冊『表紙文様集成』

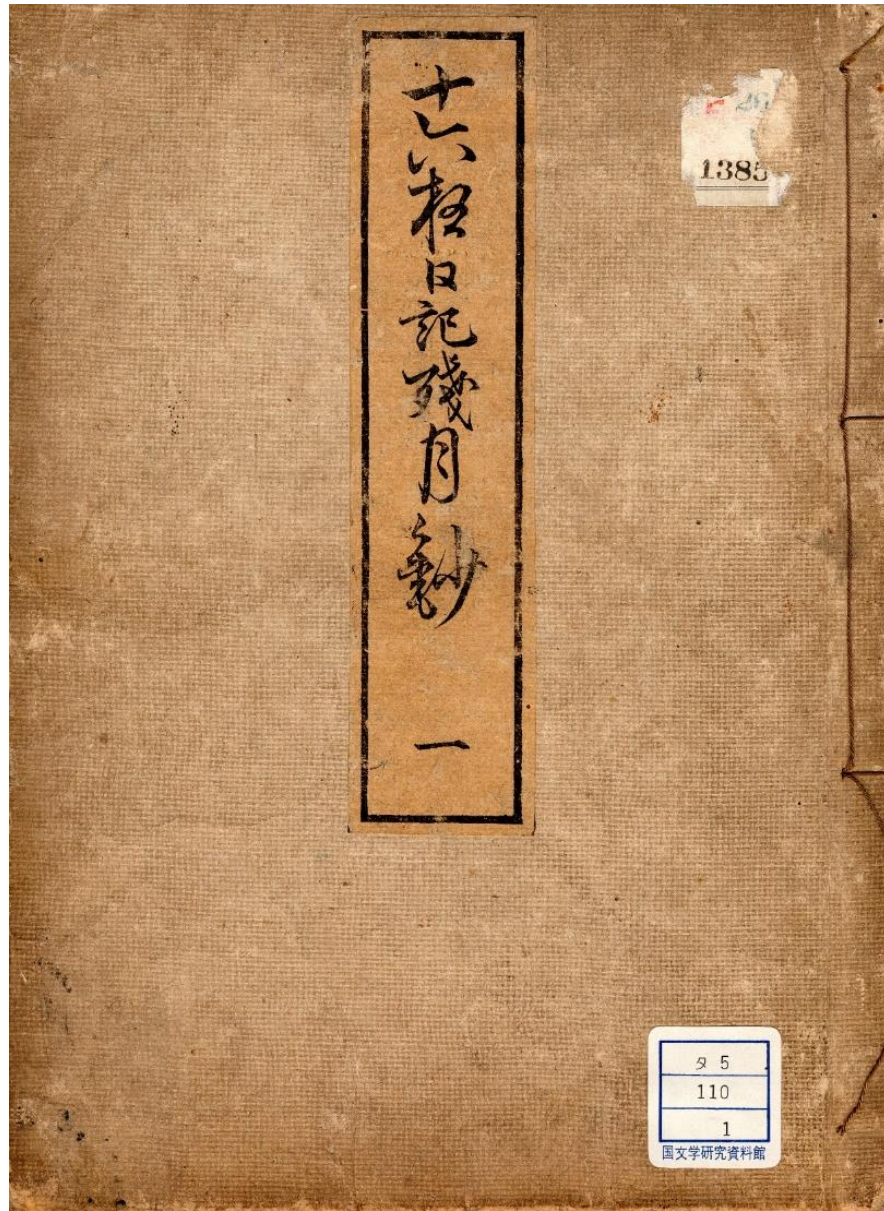
（中野真麻理・小川剛生編、2004年。国文研リポジトリからも公開）参照。



### Ⅲ 文様のさまざま

地文様・幾何学文様

① 布目



(部分拡大)

文政7年刊『十六夜日記残月抄』タ5-110-1-3  
<https://doi.org/10.20730/200001913>



②卍繋ぎ (まんじつなぎ)

卍の字をくずして連ねたような形。紗綾形 (さやがた) とも呼ばれる。卍は仏菩薩の胸や手足等に現れた吉祥相。

例・卍繋ぎ地に牡丹 (ぼたん) 唐草



慶安5年刊『奥義抄』(表紙ウラ)サ2-14  
おうぎしょう

<https://doi.org/10.20730/200000991>  
<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200000991/viewer/2>

とらや 干菓子「推古」  
法隆寺の卍くずしを  
かたどる

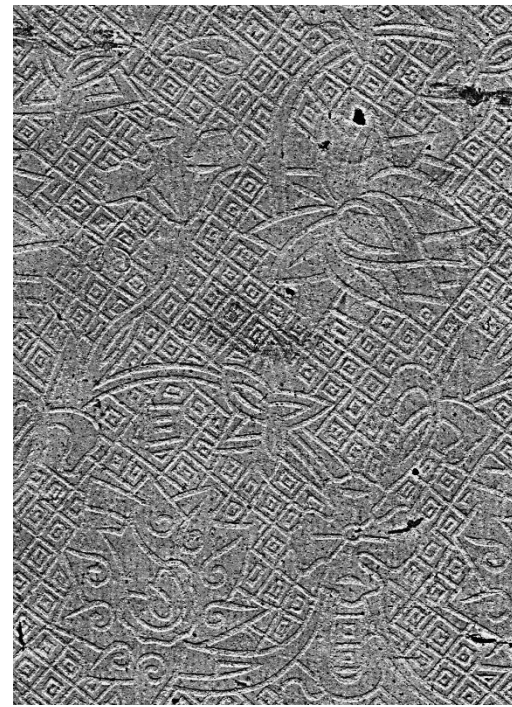




③ 雷文（らいもん）

稲妻形に屈折した線から成る。方形のうずまき状。

例…雷文繋ぎ地に蓮華唐草



明治期刊『青丘詩鈔』(表紙ウラ) ラ4-1  
せいきゅうししょう

例…雷文襷<sup>たすき</sup>地に雨竜



寛永無刊記『徒然草』(表紙ウラ) タ5-32  
<https://doi.org/10.20730/200002162>

④ 麻の葉

例…麻の葉地に小菊と若松の丸散らし



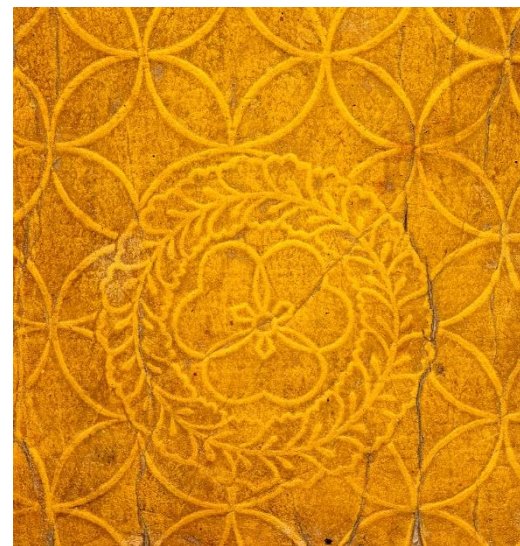
江戸後期刊『頭書鴨長明方丈記』  
(方丈記之抄)  
89-344(高乗家)  
<https://doi.org/10.20730/200015862>

⑤七宝繋ぎ（しっぽうつなぎ）

例..七宝繋ぎ地に藤輪に片喰かたばみ文

⑥菱（ひし）

例..布目ぬのめ地に花菱 ※布目地も多用される文様



文久3年刊『江戸大節用海内蔵』  
えどだいせつようかいだいら

マ3-39

<https://doi.org/10.20730/200004490>

例..松皮菱



江戸後期刊『枕詞燭明抄』  
まくらことばしよくみょうしょう

ナ2-289(表紙ウラ)

<https://doi.org/10.20730/200006564>

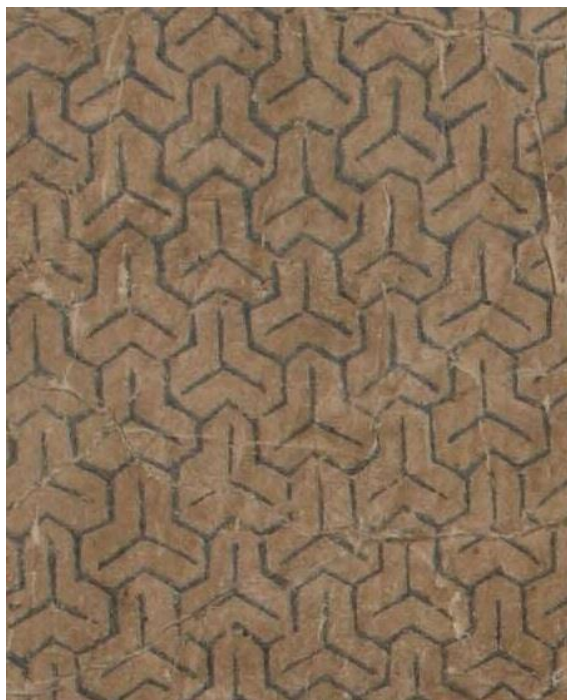


嘉永元年序・刊『偏類六書通』  
へんるいりくしょつう

マ3-52

<https://doi.org/10.20730/200004493>





例.. 毘沙門亀甲 (びしゃもんきっこう)

『天林山笠覆寺観音縁起』

てんりんさんりゅうふくじかんのんえんぎ  
MX-355-44

<https://doi.org/10.20730/200018616>



例.. 花文二重亀甲繋ぎに竜  
⑦ 亀甲 (きっこう)

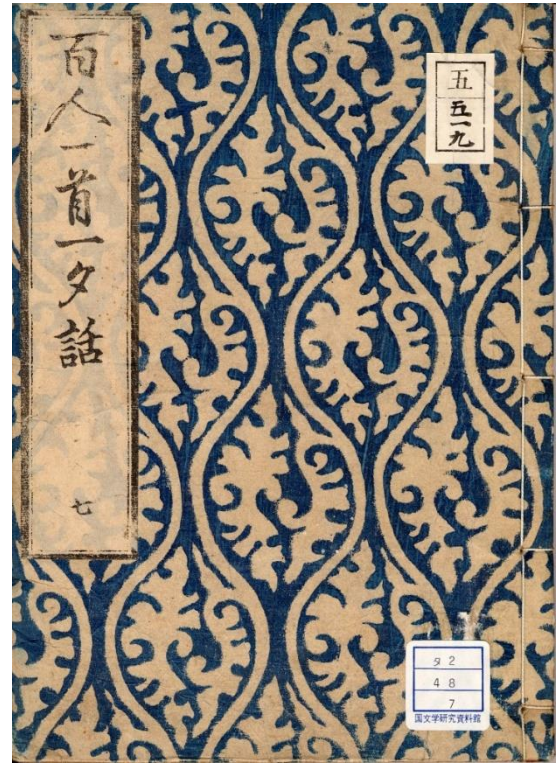
宝永7年刊『二人びくに』  
ナ4-409



⑧立涌（たてわく・たちわく）

雲がわき起こるさまをかたどった吉祥文。

例・雲立涌

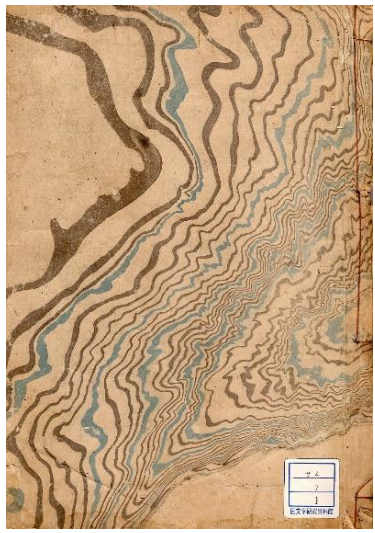


天保4年刊『百人一首一夕話』夕2-48  
<https://www.doi.org/10.20730/200000999>



慶應義塾大学蔵『酒呑童子』  
<http://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja/naraehon/132x-70-3-1>

⑨墨流し

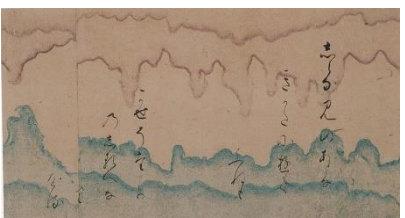


天明4年刊『竹取物語抄』サ4-7  
<https://www.doi.org/10.20730/200001896>

⑩打曇り（うちぐもり）

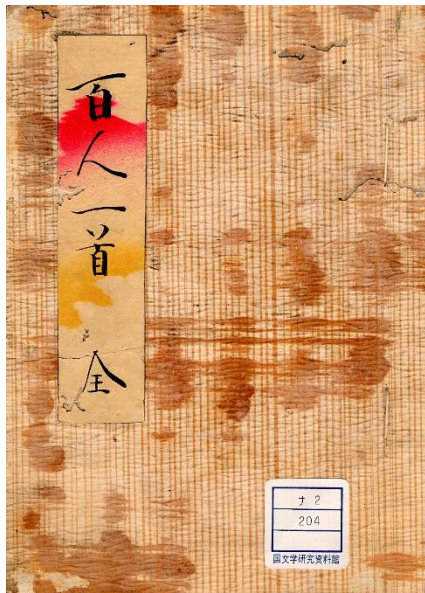


文明9年写『古今集注』サ2-20



国立歴史民俗博物館蔵  
『古今集恋歌散し書』  
『うたのちから-和歌の時代史-』  
2005年





江戸後期『百人一首』  
ナ2-204

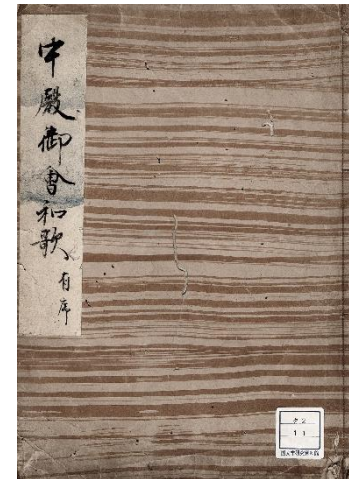
例..横刷毛目 (渋引)



近代写『うつほ物語俊蔭卷』  
12-446 (初雁文庫)

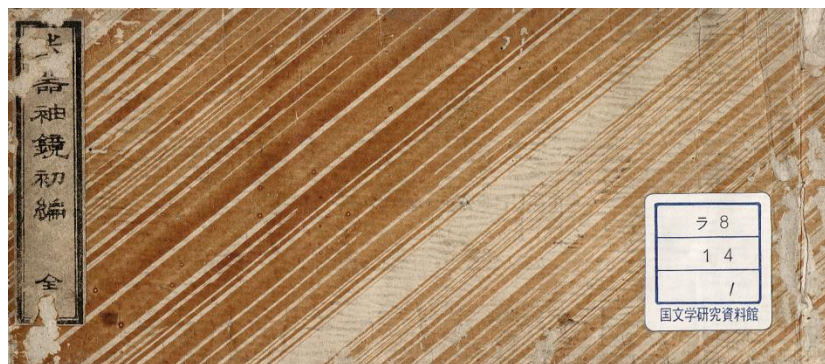
<https://doi.org/10.20730/200003341>

例..格子刷毛目



江戸後期写『中殿御会和歌』タ2-11  
ちゅうでんぎよかいわか

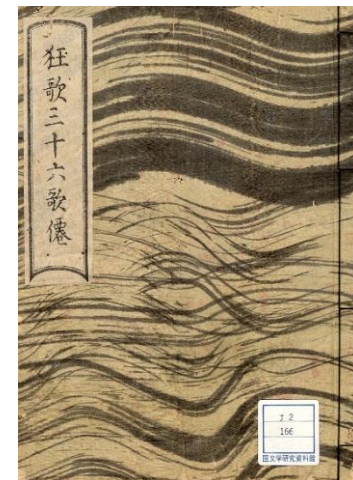
例..横刷毛目  
⑪刷毛目 (はけめ)



天保14年刊『武器袖鏡』ラ8-14

<https://doi.org/10.20730/200000845>

例..斜刷毛目



文政5年刊『狂歌三十六歌遷』  
ナ2-166

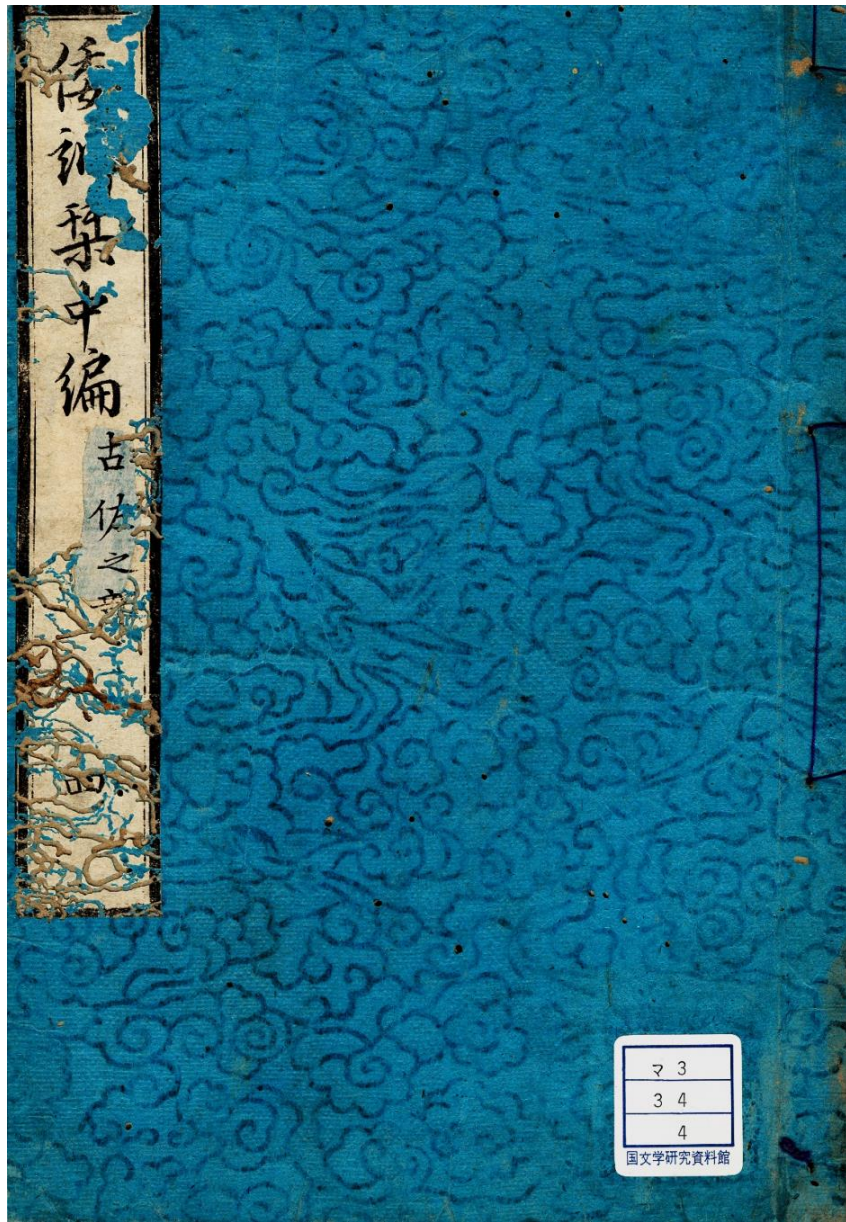
例..波刷毛目



自然・動植物文様

①雲文

例…雲中に鶴



明治15年刊『倭訓栞』マ3-34  
わくんのしおり

例…朽木（くちき）雲



幕末明治期刊『近世奇跡考』  
ナ5-141



天保14年刊『古今和歌六帖標注』  
サ2-1





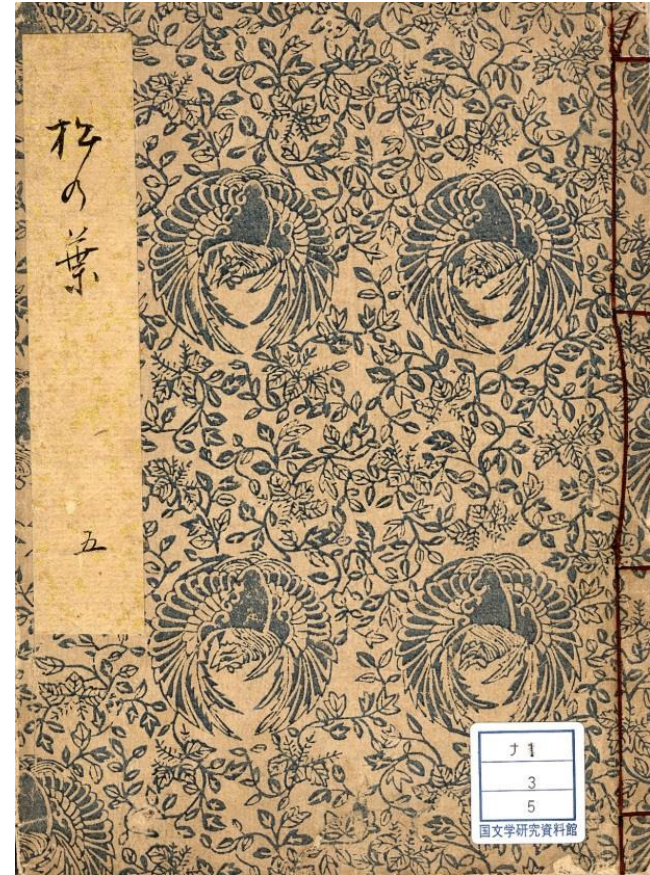
朽ち木型の几帳(きちょう) 『源氏物語絵巻』「早蕨」

<https://www.tokugawa-art-museum.jp/exhibits/planned/2018/1103-1toku/>



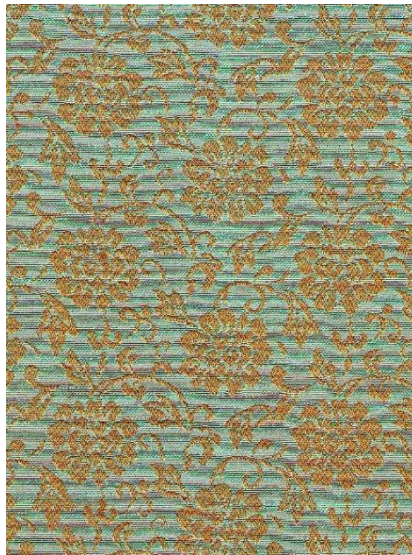
②唐草

例…桐唐草と鳳凰の丸 ※古来、鳳凰は桐に棲むとされる



元禄16年刊『松の葉』ナ1-3  
<https://doi.org/10.20730/200002600>

例…牡丹 (ぼたん) 唐草



江戸中期写  
『住吉物語』(帙)  
タ4-33

例…蓮華唐草に梅鉢散し



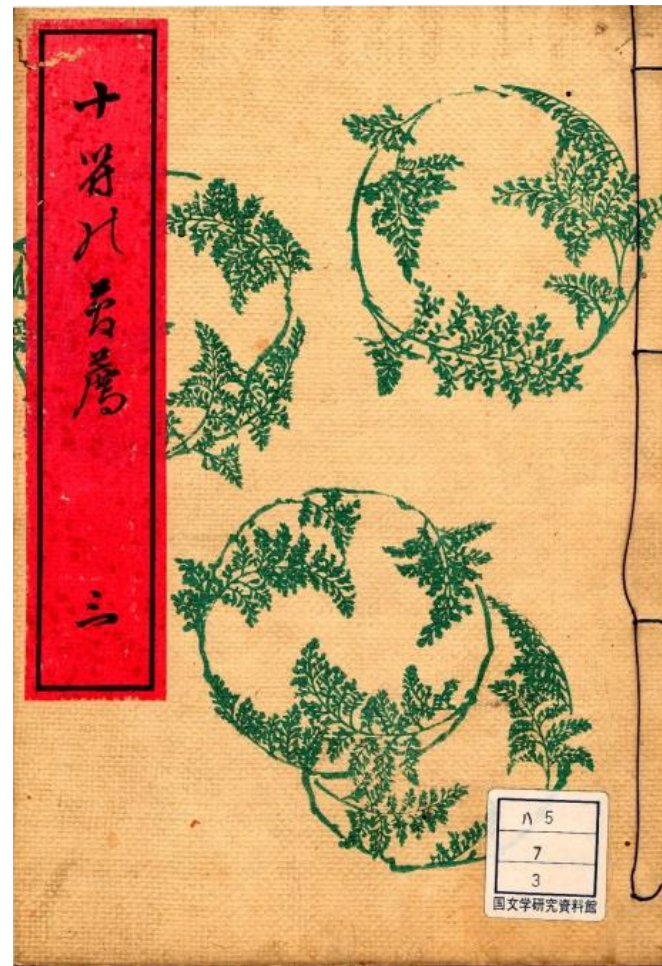
『徒然草』万治2刊 89-36 (高乗)  
<https://doi.org/10.20730/200015971>





『茅窓漫録』天保4刊 当館蔵ナ5-12  
<https://doi.org/10.20730/200002247>

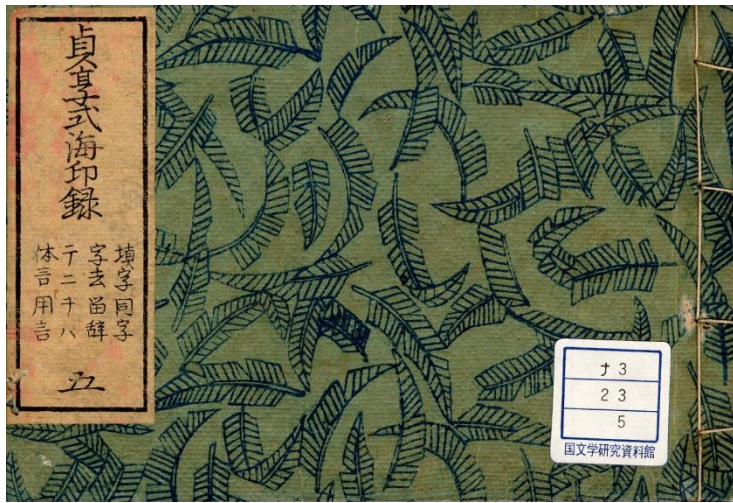
例…布目地に信夫と蝶



明治9年刊『十符の菅薦』ハ5-7  
 じっぷのすがこも

③信夫（しのぶ）  
 例…布目地に信夫の丸散らし





安政6年序・刊『貞享式海印録』ナ3-23  
じょうきょうしきかいいんろく

⑤ 芭蕉  
例.. 芭蕉葉散らし



文化5年刊『月詣和歌集』12-331  
つきもうで

④ 葵 (あおい)  
例.. 布目地に二葉葵散らし



『武家百人一首』  
ナ2-212

⑥ 梅  
例.. 氷割れに梅花



元禄6年刊『伊勢物語絵抄』  
12-416

例.. 小葵 (こあおい)



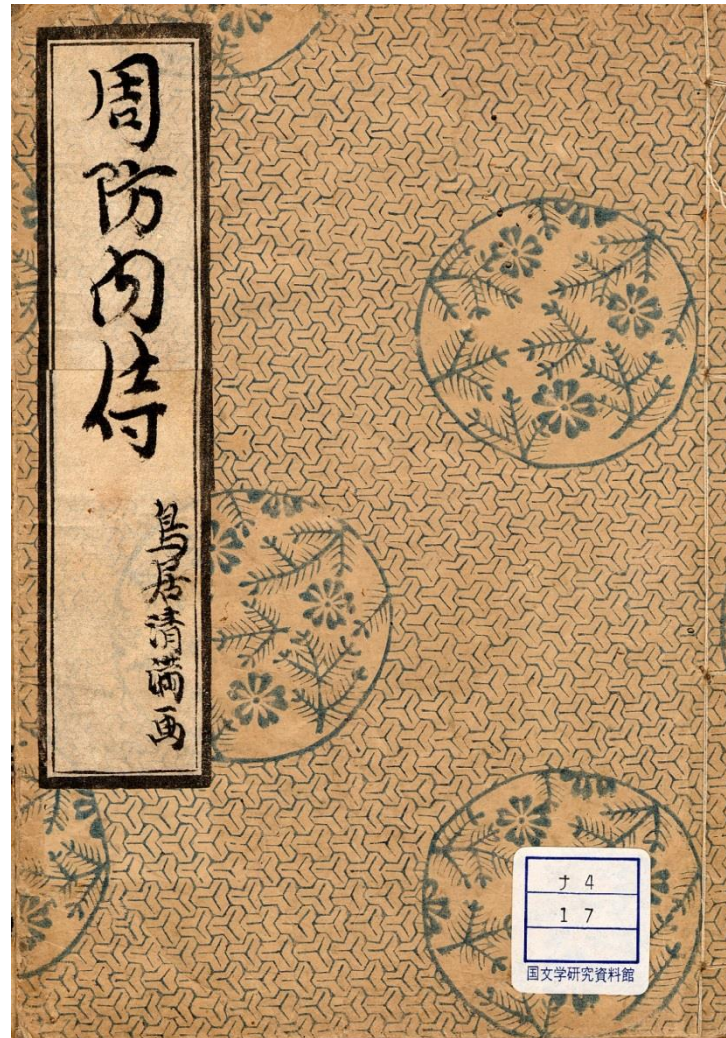
## IV 文様レッスン①



繋ぎ目

『仙洞御添削百首』ナ2-261

## IV 文様レッスン②



地に

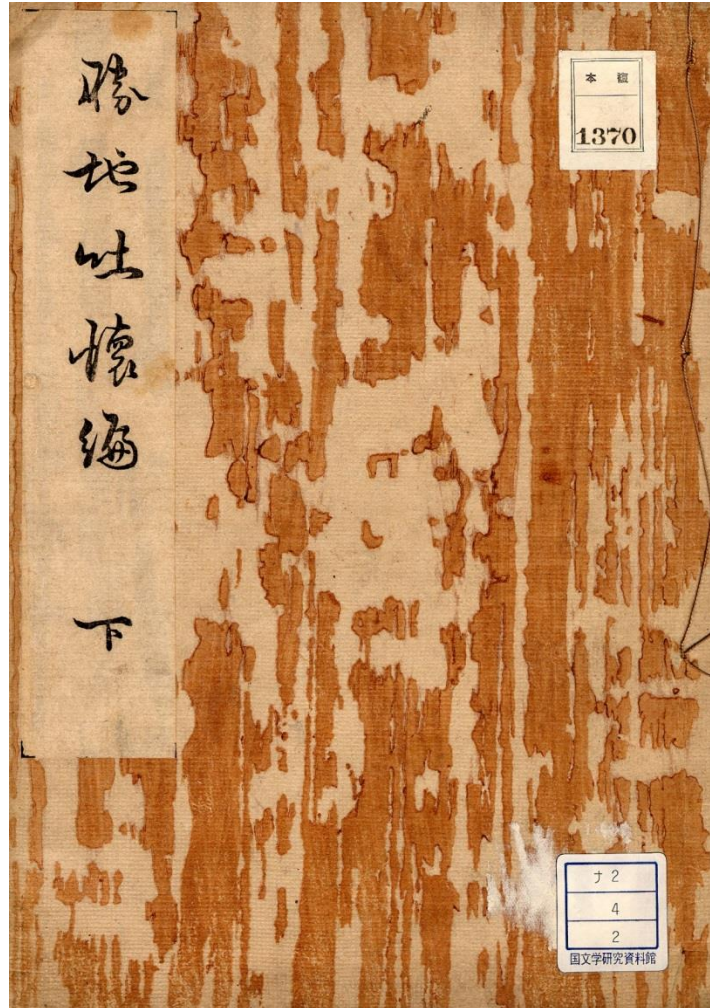
と

散らし

江戸後期刊『周防内侍』ナ4-17



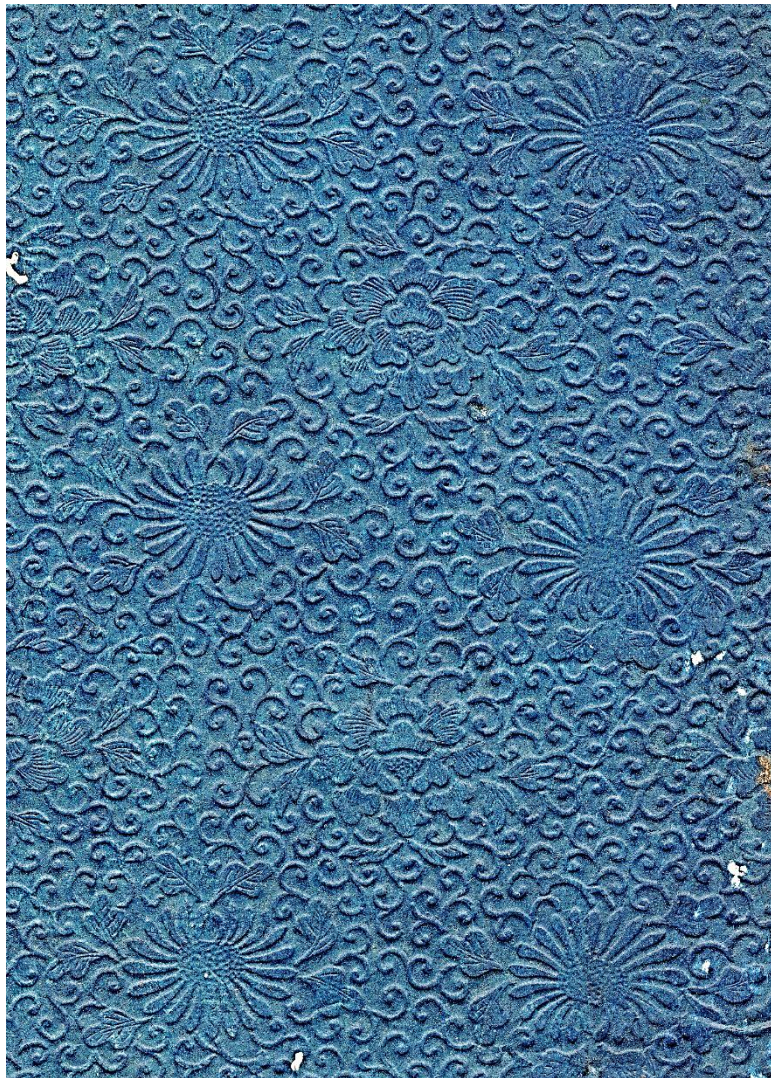
## IV 文様レッスン③



寛政4年刊『勝地吐懐編』ナ2-4

目  
（  
引

## IV 文様レッスン④

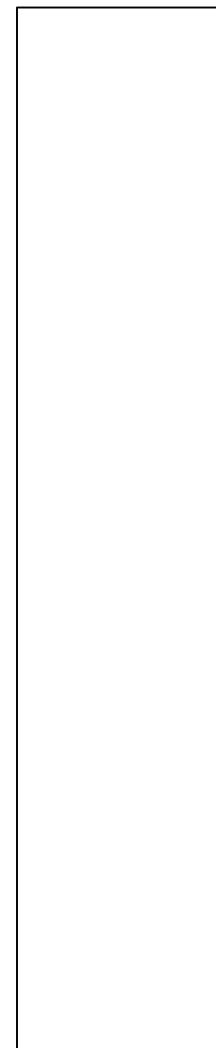


唐草

『国本論』



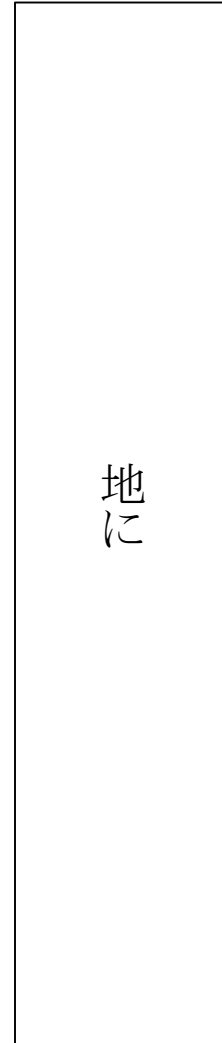
## IV 文様レッスン⑤



# IV 文様レッスン⑥



(部分拡大)



『松屋叢考』ヤ9-122



# 参考文献

- ・『日本古典籍書誌学大辞典』岩波書店、1999年
- ・国文研文献資料部『調査研究報告』25号別冊『表紙文様集成』  
（中野真麻理・小川剛生編、2004年。国文研HPからも公開）
- ・長沢盛輝『日本の伝統色 その色名と色調』青幻舎、2006年
- ・『日本の伝統色』大日本インキ化学
- ・「和書のさまざま―書誌学入門―」国文研HP
- ・2019年通常展示「和書のさまざま」国文研リポジトリ
- ・沼田頼輔『日本紋章学』人物往来社、1968年

ご静聴ありがとうございました

